

令和5年度 栃木県立小山高等学校同窓会 定期総会



小山高同窓会報

第7号

2024年3月1日

発行

小山高等学校同窓会

印刷 大星印刷(株)

同窓会長挨拶



同窓会会長
船渡川 進

第七号会報を発刊するに当たり一言ご挨拶申し上げます。会員の皆様には日頃より小山高等学校並びに同窓会に對しまして深く御理解いただき、並々ならぬ御協力、御支援を賜りまして誠にありがとうございます。

同窓会の最大の行事である総会を、令和五年五月二十日(土)に学校において、多数の会員に参加いただき、盛大に開催することができました。令和六年度は五月第三土曜日

に小山グランドホテルにて開催いたしますので、是非お誘い合わせの上御出席いただき、母校の空気に触れていただければと存じます。御来場を心よりお待ちしております。

また、令和五年度小山高等学校創立記念講演会が十一月九日に開催され、JAXAの吉川真先生を本校にお迎えして、「小惑星探査機『はやぶさ2』世界への挑戦とその結果」と題して御講演いただきました。先生は本県の御出身で「はやぶさ2」のミッションマネージャーを務められ、日本の宇宙開発の第一線において指導的な立場として御活躍です。「はやぶさ計画」を中心とした壮大かつ緻密なお話に、生徒たちも大いに知的好奇心を刺激され、積極的に質問する姿が見られました。今後、この生徒たちの中から吉川先生に続く研究者が誕生してくれることを願っております。

会報の発刊に對しましても、年々御寄稿、御寄付下さる方が増え、誠に感謝にたえません。さらに同窓会の輪を広げていきたいと思っております。今後更に会報の充実に努めていきたいと

存じますので、会員の皆様からの近況についての御連絡や、同窓会への忌憚のない御意見を頂戴できれば幸いです。今後とも変わらぬ御協力と御支援をお願いするとともに、会員の皆様の御健康とますますの発展をお祈り申し上げます。同窓会報発行の御挨拶といたします。

令和5年度 栃木県立小山高等学校同窓会 定期総会



校長挨拶



校長 小林 崇宏

同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に対してご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、3年間のコロナ禍を経て、昨年5月8日にコロナが5類の扱いとなり、学校行事も本来の形を取り戻したり、コロナ後の新たな形を探ったりしながら、実施してまいりました。1学期には、5月の球技大会や6月の芸術鑑賞会などもコロナ禍以前の形で行うことができました。2学期には、9月5日に体育祭である「秋華祭」が実施されました。熱中症が懸念されたため、屋外で行う競技は午前中で切り上げ、昼休みをはさんで、閉会式はオンラインで各教室で視聴する形で行いました。2年生の修学旅行も、10月18日～20日の2泊3日で予定どおり実施できました。今後も、学校行事はコロナ禍で得た知見をもとに、よりよい在り方を検討していくことになると思います。

部活動では、1学期に剣道部、ウエイトリフティング部、陸上競技部、ボクシング部、水泳部、少林寺拳法(個人)が関東大会に出場し、剣道部は関東大会女子団体優勝という目覚ましい成果を上げました。さらに、夏季休業中に北海道で開催された全

国高校総体には、剣道部、ウエイトリフティング部、陸上競技部、少林寺拳法が出場し、栃木県代表として活躍しました。また、放送部がNHK杯全国高校放送コンテスト県予選の番組部門において入賞し、全国大会への出場を果たしました。2学期には、陸上競技部が鹿児島国体と関東選抜大会出場を果たし、関東選抜では6位に入賞しました。また、10月中旬に栃木県で開催された全国高等学校選抜剣道錬成大会(各都道府県ベスト4以上の強豪校が出場する全国大会)で、女子団体が優勝、男子団体も4強入りを果たしました。この原稿を作成している11月末現在、ウエイトリフティング部の1月関東大会出場、少林寺拳法の12月関東大会及び3月全国大会の出場の知らせを受けております。今後も本校生の活躍を大いに期待したいと思います。

本校は「文武両道を目指す進学校」ですが、令和5年度の国公立大学合格者数は61名でした(北大や東工大などの難関大学にも合格)。私立大学にも延べ406名が合格しました(青学・学習院・中央・法政・明治・立教・東京理科などにも合格)。また、本校では、数理科学科・普通科ともに探究学習に力を入れており、各大学と連携協定を結び、大学の積極的な協力を得て、進路実現に結びついた意義深い学びを実現し、成果を上げています。9月には、2年生数理科学科の課題研究中間発表会がありました。1人1研究を行うということで、1人ずつが発表しましたが、大変充実した内容の発表でした。

11月9日の創立記念講演会では、同窓会の全面的なご支援のもと、小惑星探査機

「はやぶさ2」のミッションチームで指導的な役割を果たされました、吉川真様を講師としてお招きして、大変有意義なお話を拝聴することができました。生徒たちにとっても、日々の学びの大きな動機付けになったことと思います。

最後になりますが、創立105周年を迎えた本校の更なる発展に向けて、今後とも変わらぬご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

未来へ繋ぐ



生徒会長 天谷 松佐

新型コロナウイルス感染症が5類へと移行され、普段の学校生活も感染拡大以前のように戻りつつあります。その中で今年度は4年ぶりとなる秋華祭を実施しました。屋外で行うため、感染症対策の他にも熱中症対策を徹底しました。午前のみ屋外で競技を行い、午後は室内でダンスや軽音楽の発表を見るという日程を組んだり、日陰のためのテントを多く設置したりしました。秋華祭を最後に行ったのが4年前だったため、在校生は誰も秋華祭を経験していません。そうしたゼロに近い状態から計画、準備をしなければならぬ中、全校生徒が安全でかつ楽しい秋華祭にしようと、生徒会役員や実

行委員が丸となって頑張りました。その他のにも放送部や書道部、午後の発表に参加して頂いた同好会の方々、沢山の人の協力して貰いました。その甲斐もあってか、午前の屋外競技から午後の発表まで大きなアクシデントもなく、充実した時間を過ごすことができました。協力して下さった生徒の皆さん、先生方へ、心から深く感謝申し上げます。

また、学校行事だけではなく、授業や部活動なども通して、私たち小高生は本校の指標である「聡直剛」を胸に成長していきたいと思っています。そして私も生徒会長として、小山高校のより良い未来のため、生徒の皆さんと共に日々精進して参ります。

最後になりましたが、日頃からご支援して下さいている同窓会の皆様に厚く御礼申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻の程をよろしくお願いいたします。



不屈の歩みを次の100年へ

活躍される同窓生

商店街の変遷



S.34年度卒業
ステージパンダ
須田 陽介

昭和17年生れの私は小中高と足袋と下駄、ズック靴、底に鉄の皮靴でした。御殿町、洋品屋の長男で姉二人、弟二人、PTA役員だった父は「女は城南、男は小高、五人平等」が口癖です。ある日、駅前広場に街頭テレビ、力道山の空手チヨップは凄い一言。盆踊りの八木節の太鼓は町中響きました。

部活は統計調査部で、当時の日本は貿易立国をめざし工業製品の輸出増が課題です。

私達小山中3年生は、11クラスもあり、550人の生徒数、トップテンは工業高校を受験しなさいと学校が誘導したのかも、その政策が次の団塊世代をまきこみ「メイド、イン、ジャパン」が世界を席巻。GDPがNo.2となり日米貿易摩擦です。

当然ながら私に誘導はありませんでした。教育が国の繁栄に、いかに重要か、人が資源なのです。商業科では簿記、税務会計です。のちのち、国際基準と我が国は少し違うので、問題が生じます。土地の含み資産評価額や株価などです。

私は商店街の地図作りが担当でロープとメモで、今日は本町、明日は上町、屋号、職種、間口と、伊能忠敏になった積

りです。隣はお茶屋、魚や、向かいには薬や、映画館、角は銀行、呉服や、等、個性豊かな店が、でも職種はダブッテイマン、見事な共存共栄です。世の中が平和となり、安心して稼業に、朝から晩迄、年中無休で水道はなく風呂もなく、すべて井戸水です。銭湯です。

しかし平穏は続きません。都会の情報が入り、テレビで飛びかい、魚やがスパーに、映画館はワイドカラー、電気屋がチェーンとなり『三種の神器』テレビ、洗濯機、冷蔵庫が大モテ。のちに大型スーパーが百貨店を駆逐。正に流通革命です。さらに小山駅東の開発事業で銀行と不動産屋の出番です。土地の売買と株、つまり商人が商品を売る行為以外の投資で買う側に回ります。この行為は情報が必要です、当然リスクが伴い、今こそ、チャンスと、とらえる人と、座して動かぬ人、決断は容易ではありません。

損得がからむのです。工場誘致条例で農地の宅地化、大企業の工場建設、大勢の人材、労働力を確保する為、地元から東北と金の卵を求めます。『ああ上野駅』。人材育成で、小高の定時制が重要な役割をにないました。

それから激的な変化が『一家に一台』車社会の到来で駐車場のない商店街等、死活問題です。国は『駅西再開発事業』を提案し、莫大な予算を計上、三夜通りで、ステーキ専門店を営んでいた私も当事者の一人で、商店と同居200軒以上の再開発で10年ついに、私は城北に移転して早32年。その間リーマン、大震災、円

安と社会は変化します。強い人、賢い人、変化に対応できる人『正解は引き出しの多い人だよ』タンス屋さんの迷言です。

奇跡の高度成長から、30年、ボタンのかけ違いで長期休暇中ですが、もういいでしょう。

すでに世界からお呼びがかかっています。『技術立国、日は又昇る』です。人、物、金は揃っています。主題は『脱炭素社会』でしょう。

『日の丸半導体』の復活と戦略の練り直しで官民一体、基盤強化に政府も乗りだしました。最新のニュースでは、日陰でも太陽光発電ができるソーラーパネル。里山・里海・再生運動、等々、できることから確実に変えることが大切ですね。



S.39年度卒業
山家 政勝

九死に一生

合宿中の出来事、夜も冷やさぬ様タイツをはいて寝ると云われたが、クラスの三人で思川へ水浴びに、俺と添野君は泳いで渡ったが山中清志君は、遊園地側を歩き「おいこっちへこい。引っぱってやるから」と彼は勇気を出し飛び込んだものの、俺の手に届かずパンツに捕まった。そのため二人流され俺はフライ級、

山中はライトヘビー級だ。懸命に泳いでも、もがいても浮いては又沈み、これは駄目だ、これで俺は終わりか「死」ぬのかと思った。浮き上つては添野と叫ぶ、でも又沈む、彼は正面から俺を捕まっつてしまおうと後ろから俺を押したと、僅かに1〜2mで浅瀬になり助かった。

添野は最初は二人でぶざけ合って遊んでいるのかと思つたと、彼は川辺で育ち正面からではヤバいと、そんな状況の時を熟知してたのかと感謝した。三人でその場に腰を下ろし「良かったナ」「添野が居なかったら俺ら二人はどうなっていたかナ」「おめいらが死んじやったら、俺は警察沙汰になり大変だよ」と学校の近くの行きつけの店のおばさんにこの話をしたら「そんな事になったら学校で大騒ぎで新聞沙汰だぞ」と云って梅酒を飲ませてくれたことを覚えています。今でも逢う度に添野君を「命の恩人」と云うのが最初の挨拶です。今こうしていられるのも無二の親友のおかげと感謝し付き合っています。

楽しい自転車旅

ある時誰云うこともなく何処かへ遊びに行かないかと、藤岡の田中が「俺の家から館林のつつじ公園が近いぞ」と、話は早い。「良しいくべー」今度の日曜日と決まり何時出発にするかと、山家は一番遠い「俺は家で待っている」、塚崎を廻り間々田の友を誘い藤岡へ、当時は人家のところは舗装され、他は砂利道で車を通るたび砂埃が煙のように舞い上がり、学生服は埃で白くなり「少し休む

活躍される同窓生

か、チョット小高い所で弁当を食べた。この時の野外弁当はうまくいったことか。

いよいよ公園だ、笑われるからと互いに顔を見合わせ笑い笑ひ帽子で埃を払い、園内は人ひとだ。つつじが見事に咲きこんな「キレイなつつじ山」は俺は初めて。田中の発案のおかげで感銘深く今でも心に残り、来て良かったと思いつた。何を食べたか定かではないが多分「ダンゴ」かなど。今の様なギヤ付きの自転車ではなく「ヤミ屋」の自転車、6人して話し合いながら今更ながら良く行ったものと思います。

帰路は塚崎からは俺ひとり、若き故のことでした。今行けるかと問われたら「ゴメンコウムル」と申します。今でも集まる度に館林の件が話題となり旧交を温めており、友よいつまでも互いに息災を祈ります。

農業科故

学校には乳牛、豚、鶏がおり、飼育のため先生との二泊三日の宿泊当番があり、一年生は炊事当番で上級生に飯は「コゲ」は作るな、味噌汁は人数分だけおわんで計れ、卵を入ると朝食前に搾乳用の湯を沸かした。昼食は授業終ると同時に宿泊室へ。急ぎ食事を済ませ片付けた、一年生は忙しい、夕食時は卵を茹でろ、味噌汁に卵を入れ、先生が何故こんなに卵が卓上にと尋ねるが傷付きが有りましたので、上級生との寝食を共する宿泊当番で、親睦を深め理解し合う協同生活であります。お風呂は小使い室へおじさんが「おめいら食べるか」とパン

と牛乳がザルの上に、おそらく定時制の欠席者の分かと思うが有り難く頂いた。夏の帰りはいいが冬の帰りは寒い。牛乳が缶に冷して有りチョット失敬したものです。思えば楽しい時もあつた宿泊当番でした。

バナナへの思い

当時はパンは10円、小金井から小山駅迄10円、駅から学校迄のバス代も10円だったと思います。バナナは高価で食べたこともなく、山中清志君と「バナナ腹一杯食べたものだナ」と「うん俺も食べたい」と小山駅前前のバナナ屋で買つて小山ゴルフ場のグリーン上で食べた。バナナは梨、柿の様にじじらなくつても噛まなくつても溶ける様だと互に5〜6本位食べたかと思う。腹一杯だ。「山中食えよ、山家食えよ」と、もういいよと残りは分け合うべと満足だ。気持ちいいな幸せものと、天を仰いで寝そべって居たら向うの方から「この奴ら」と怒鳴る声だ。それ山中逃げろー、互に山家、山中で同じ山なので農場当番も運動も一緒だ。彼は南へ俺は北へ又明日ナと別れた。山中が健在で居れば話の尽きぬ水魚の交わりの友だ。あまりにも早い、悔やしい残念だ。山中今は何しているのかなと思います。

収穫物の販売実習

両毛線を渡った北側に学校の田が有り田植えや収穫、三年生になると桃、梨をリヤカーで学校周辺へ販売だ。学生さんならと、どこの家でも心良く買ってくれた。それでも残れば遊園地行けば完売で

した。当時の農業科は結構多種多様な体験が出来る楽しい思い出多い学校でした。友よいつまでも健康第一に八十路を三段飛びで飛び越し、今の幸せと健康を喜び感謝しようと思います。

若き楽しき青春を過ごした昭和な年代を遠きなりと感じます。同窓会の益々の発展と会員皆様の活躍をご祈念申し上げます。

頑張ろう、小高同窓会皆々様。



S.43年度卒業
池上 和子
(旧姓 井上)

思い出

私が東京から初めて「小山」に来たのは今から約六十年近く前になります。「おやま」と読めず、どこにあるかわからず不安と寂しさで過ごす毎日でした。

でも小山高校に入學してからは今でも付き合ひのある友人達と出会い、とても良い高校生活を送る事ができました。

私達は小山高校女子剣道部の二期生ですが最近のだいぶ年の離れた強い後輩達の活躍には尊敬と喜びの気持ちでいっぱいです。

寒稽古と称しての裸足の練習、床の冷たさは忘れられません。何とか初段を取れたのは嬉しい？先生の教えだと感謝しています。

色々思い出はありますが、中でも運動会の仮装行列「源平屋島の戦い」で二位になった事はよく覚えています。男女逆装に扮装したり大越君の女官姿はなかなかでしたよ。

又写真部でもないのにちゃっかりと友人数人で撮影旅行にも参加させてもらいました。

あの時はワイワイと楽しく、時々写真を見ていると昨日のように思い出します。

修学旅行、球技大会と楽しい思い出ばかりの高校生活、今でいう「恋バナ」に心をとめかかせていた高校生活、何年たっても色あせることのない高校生活。

卒業して東京で仕事をしていましたが野球部が初めて甲子園に出場した時は勿論応援に行きました。何とも誇らしい気持ちで賑やかに応援できたのはまさに青春の思い出です。

今年の夏の甲子園も他校の試合で大いに楽しみましたが又母校の応援がしたいですね。

私は昔から地図を見るのが好きでしたが四十代半ばになると海外一人旅を始めました。

パソコンの普及で今は色々情報が入りやすくなり各国の様子もよく分かるようになりました。家族の了解を得てパート勤務の休暇を駆使して各国行きました。

家族や友人とも行きますがやはり気ままにひとりで動けるのは良いですね。

コロナの影響で最近では暫く行けてませんが是非また行きたいと思っています。

活躍される同窓生

国内でも雪の残る松本城、新緑が美しい北海道大学の並木道と良い所が沢山あります。

七十過ぎた今、以前の様にはいかないかも知れませんが目標の海外旅行百回達成まであと九回、なんとか健康維持して続けたいと思います。

数年前からは社会人講座のようなものを、色々受講して今は古典を受けています。

あちこちポンコツ状態ではありますがなんとか健康で多少の好奇心があれば高齢も悪くはないと日々過ごしております。

最後になりますが全くの素人で、誠につたない文章を書く機会を与えて下さりありがとうございます。

些少の寄付で毎号立派な会報を作り届けて頂き役員の皆様には本当に感謝しております。



S.55年度卒業
K.K. 荒井工業
荒井 宣

小山高校同窓会皆様、同級生の植村一

様この様な機会を頂きましてありがとうございます。私小山市内で建設業、主に土木工事の会社を営ませて頂いております。卒業させて頂き早43年が過ぎております。私はあまり自慢できるような高校生ではなかったものですから正に卒業させて頂いたと思っており、担任だった石川 学先生には感謝してもしきれない気持ちで一杯です。遅刻早退の常習者だった私を見放さず指導して下さいました先生には卒業後にお会いしておりませんが、今もご健在とのこと、嬉しく思っております。卒業時に世話して頂いた会社に入社した事で、今の伴侶と出会い4人の子と7人の孫に恵まれました。人・仕事に恵まれ現在が有ります。

今は普通科と数理科があるようですが、私の頃は普通科が7クラスで商業科が4クラスだったと思います。商業科の2クラスが女子でした。共学ですが男女別のクラスでした。実習とかの授業では一緒のこともあり少しドキドキしていましたが、気持ちは青年いや少年だったかもしれません。部活はバスケットボール部でしたが1年生の時に挫折してしまいました。部長だった荒井先輩や2年の山中先輩にはご迷惑をおかけして申し訳

ありませんでした。

現在の仕事について少し、建設業は3K(きつい・きたない・きけん)と言われていますが、徐々に変わってきています。労働時間の見直し、有給休暇の取得推進、週休2日制等、また現場においては安全衛生管理、危険作業には計画・実施・確認・是正を行い安全を徹底しています。そして色々な作業も変わってきています。ドローンやレイザースキャナ1・GPSによる測量、2Dから3Dの図面、3D図面を取り込んだICT建機(マシンコントロール・マシンガイド)機能、今まで機械と丁張(高低、傾斜の印)・指示する人がセットで作業していましたが、機械の運転席のタブレットに出る3D画像に沿って作業ができ、丁張と指示人が要らない。)の使用など、安全とこれからの人手不足を考えて作業できる環境が整いつつあります。これから卒業される後輩の皆様、どうぞ建設業への進路も御一考ください。1従業員、2協力業者様、3顧客様、4地域皆様のためにこれからも精進いたします。

最後になりますが、同窓会の皆様と全員の関係者様へのご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。



H.10年度卒業
社会保険労務士
鈴木 裕希

私は、学科再編成で新設された英語人文科の第1期生として入学しました。小高を志望したきっかけは、野球部に所属していた中2の夏、甲子園出場を果たした小高野球部に憧れたからです。しかし、入学はしたものの、当時は自分に自信が持てず野球部に入部することが出来ませんでした。

目標を失い過ごした高校生活でしたが、唯一やり遂げたと思えるのが英語の勉強です。3年間担任だった堀信子先生をはじめ、英語の佐山利晴先生等、情熱を持って指導頂いた先生方には今でも感謝しております。毎日数時間行われる英語の授業についていくのは大変で、ワードバンク(英単語帳)から出題される単語テスト、構文、テキストの暗唱等、英語漬けの毎日でした。1年時の文化祭の英語劇でとき話の『桃太郎』を演じ、犬役の私が桃太郎にきびだんごをもらう場面のセリフ「Hey! Momotaro, What is this around your waist? (桃太郎さん! お腰につけたものは何ですか?)」は今でもはつきり覚えております。

3年時には英検2級も取得でき、少しずつ英語の学力が向上しているのを感じました。しかし、大学受験の模試ではE判定(合格可能性20%以下)続き。不安

活躍される同窓生

なまま受験を迎えましたが「現役生は、試験前日まで伸びる!」という先生の言葉を励みに受験勉強をやり抜く事ができました。受験に向かう前のホームルームで堀先生がチョコレート菓子のキットカットを「きつと勝つ!」とげんをかついで皆に渡してくれたのを覚えています。

母校となった大学の英語の入試で奇跡が起こりました。大きな得点を占める長文問題。英語人文科で使用していたテキストで直前の期末試験で勉強していた文章が:なんと!そのまま出題されたのです。運を味方に英語を得点源にでき結果は合格。可能性は低くても諦めず、受験勉強をやり遂げることが出来たのは、私にとって大きな自信になりました。

大学進学と同時に栃木を離れましたが、Uターンし5年前に社会保険労務士として独立しました。社会保険労務士は企業経営を人の分野からサポートする専門家で、国家試験の合格率は、私の受験時には7.6%でした。難関の国家試験にチャレンジし、今の仕事が出来ているのは、地道に勉強し合格できた大学受験での成功体験があったからです。

高校の時に英語構文で出会った言葉「Where there is a will, there is a way」(意志あるところに道は開ける)は私の人生を切り拓く座右の銘となっています。

最後にこの寄稿はボクシング部で活躍された1学年先輩で経営者としても先輩である平田廣一さんとのご縁で実現しました。小山高校卒業生の皆様が地域で活躍されている姿に、刺激を受けておりま

す。
私も英語人文科で学んだ日々を糧に、地域に貢献できる経営者を目指していきます。



H.12年度卒業
速水 一成

このようなお話をいただいたときに、高校時代といえばあの思い出を書くしかない、とピンと来ました。そうです、担任の日向野先生です。今回、この時代を築き上げてきた伝説の物理教師と私と友人と先輩後輩と小山高校の話をまとめあげようと思います。

私の担任が日向野先生になったのは、高2のとき。国立理系クラスに入り、「0時限目」と「7時限目」の存在を知り、とにかく本来の授業とは別で自習をするというのが日々のルーティンでした。とはいえ、高校生なんて遊んでナンボで、自習なんかやらずに遊んでいたいのが本音なのですが、本気で勉学に励んでいたというのも事実です。ある日の7時限目、私と数名が教室にいてだらだら過ごしていると、日向野先生が教室に来ました。教室を見た途端「何でこんなだけいねーんだよ!」と残っている生徒の少なさに怒り発狂しながら、教室中の机と椅子が一瞬にしてハリケーン一過状態に。40基もの机と椅子が人間によつ

てひっくり返る惨状を見ることができたのも、あれが最後でしょう。また、物理の授業にて、鉄の棒を持ちつつ授業をするというのも、日常の風景の一つ。怒号が飛び交うなんて、毎朝ハミガキをする、みたいなものです。

こんなのコンプラにうるさい今の時代、あつてはならないことでしょう。でも、日向野先生をはじめ、当時の先生方には「愛」がありました。体罰みたいな事をされたとしても、それは我々生徒にとっては、今思うと、優しさだったのではないだろうか、そう思うのです。実際に20歳の頃、同窓会があり、その時に内容は忘れましたが、生徒への鉛と鞭は全て愛だ、そういった雰囲気のことを言っていたような気がします。

高校卒業後、大学に進学。その後、輸送機器関連メーカーに就職し、エンジニア職に就きました。その後、地元に戻り、実家の稼業を継ぎ独立し、現在に至ります。独立して3年が経過した頃、一般社団法人小山青年会議所に入所しました。小山市のまちづくり団体で、その地域の20歳〜40歳の青年経済人が集まいます。その中で小山高校同窓生の先輩後輩に出会うのですが、私の年代あたりの先輩後輩と話す機会になったときに、最初に出す話題は、「日向野先生」です。あれだけ恐怖だった教師の名前が、今では人脈を繋ぐパワーワードとなっているのです。

現在、何人かの同級生と一緒に遊んだり、飲んだりしています。たまに日向野

先生の話題を出すと、どこかみんな背筋が伸びる雰囲気があります。我々の体にはこのパワーワードが、まだまだキーワードとして体に染み付いているようです。この飲み会に伝説の教師が参加したときに、一体どうなるのだろうか。これが今、私のやりたい物理実験です。

懐かしの先生



元小山高校教員
中山 祥子

四十歳からの十五年間を小山高校教諭として過ごしました。その間、四回正担任として卒業生を送り出すことができ、思い出深い大きな宝物となっています。今思えば、まだまだ若く、とはいえそれなりの分別や経験も持ち合わせていた時期を、パワーに満ちた高校生達と過ごすことができて本当に幸せでした。

赴任した平成六年には、学科再編による商業科・国際会計科の閉科と、数理系と英語系の学科新設が決定しており、新着任者がとても多かったことが印象に残

つています。

振り返ると、毎日がワンダーランドに
いるような十五年間でした。それまでは
女子校勤務がほとんどでしたので、家族
からは心配されましたが、やりがいのあ
る日々でした。

一年目はそれぞれ雰囲気異なる三通
りのクラス・・・①女子の多い国際会計
科 ②男女半々の商業科 ③男子のみの
普通科を担当し、とても勉強になりました。

二年目に、男子普通科一年の担任にな
り、国立進学を念頭においた指導をし
ました。男子には多くのエネルギーを費
やしましたが、同時に多くのパワーをも
らいました。強気そうでいて繊細だつた
り、無口だけど芯が強かったり。企画
力・行動力のある子が多かったのも印象
に残っています。

平成十年には、英語人文科第二期生を
二年時から担任することになりました。
英語が大好きで多少のミスなどものとも
せずに意思疎通を図ろうとする姿には感
動しました。彼らとの大きな思い出は、
英語ミュージカルです。同じ英語人文科
担任の相川貴子教諭がダンス指導を、私
が演技指導を行い、学校祭で「ウエスト
サイドストーリー」をリメイクした英語
ミュージカルを上演しました。

その後、英語人文科第三期生三年副担
任を経て、第六期生を三年間担任しまし
た。彼らは二年時の夏休みを返上して準
備にあたり、二クラス全員参加の英語ミ
ュージカル「日本版オズの魔法使い」を

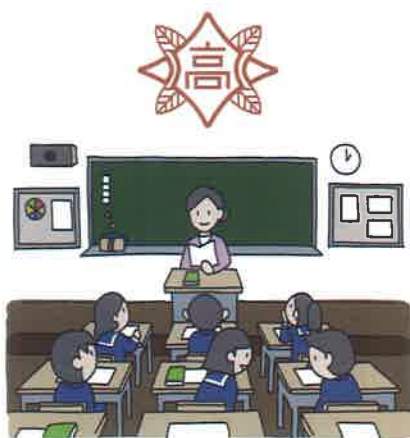
上演しました。今も忘れられないのは、彼
らがA・L・Tと英語で激論を交わしながら練
習をしていた姿です。

六年間の英語人文科主任として最も頭を
悩ませたのは、各学年各学期に一度の特別
講話の講師発掘でしたが、私自身が多くの
著名な方々と接することができて光栄でし
た。また、手作りの英語合宿から始まった
英語キャンプにもたくさんさんの思い出が詰ま
っています。

そして、平成十七年度からは最後の男子
のみ普通科担任となり、優秀な生徒達に恵
まれ、教師冥利に尽きるハイレベルな授業
展開ができました。この三年間はまた、最
後の英語人文科を擁する学年の主任でもあ
りました。

最後の年には、進路指導主事としての経
験もさせていただき、新生・共学普通科の
副担任として、新しい幕開けを垣間見るこ
とができました。

時代の要請に合わせ、数々の変遷を経た
小山高校で、多くの出会いと感動を経験す
ることができ、心より感謝しております。



在校生の“今” 活躍する部活動

剣道部

第70回関東高等学校剣道大会

結果報告

6月2日～4日に千葉県千葉市・千葉
ポートアリーナで開催された、第70回関
東高等学校剣道大会に出場してきました。
開会式では4年ぶりに入場行進を行い、
男子は前年度優勝校ということで、女子
の前年度優勝校である茨城県の守谷高校



と並んで、先頭で行進を行いました。
男子団体戦では、2年連続決勝進出、そ
して前年度優勝校というプレッシャーを感
じながらもやや慎重な戦いとなり、相手とう
まくかみ合わず、大将戦で関口真弥選手が
果敢に攻めるもわずかに一本には届かず、
初戦敗退となりました。

女子団体戦では、前年度準優勝の雪辱を
晴らすべく、選手全員が果敢に攻めて初戦
から厳しい戦いを競り勝ち、2年連続決勝
戦進出を果たしました。決勝戦は東京都予
選1位、日体大桜華高校との対戦となりま
した。日体大桜華高校は今大会3回戦で春
の全国選抜大会覇者の守谷高校を接戦の末
破って勝ち上がってきました。先鋒戦は1
年生の鶴見那鳳選手が思い切りのよい面を
決めて1本勝ち、次鋒は1年生の大鹿選手
が惜しくも1本負け、その後緊迫した展開

の中、同点の大將戦となり、2年生の大河原選手が豪快な突きを決めて勝利し優勝を手にすることができました。

また、今大会の優秀選手として女子大河原彩香選手が選出され表彰されました。

女子の優勝は県勢としては平成2年の國學院栃木高校以来、33年ぶりの快挙、また小山高校女子としては史上初の快挙となりました。選手及び部員たちはチーム一丸となり、健闘しました。

今回は制限のない有観客での開催となり、保護者の皆様も応援に駆け付け、選手たちの背中を後押ししてくれました。また、様々な形でご支援、ご指導いただきました皆様に感謝申し上げます。

※結果詳細は関東高等学校剣道大会公式ホームページでご覧いただけます。

関東高等学校剣道大会公式サイト
(kanto.koutaikendojp)

第15回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

結果報告

7月9日(日) 東京都千代田区・日本武道館において第15回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会が開催されました。この大会は女子7名による団体戦で先鋒・高校生、次鋒・大学生、5将・高校生・大学生を除く18歳以上、中堅・30歳以上、3将・30歳以上、副将・40歳以上、大將・50歳以上というチーム構成で、まさに各都道府県が総力をあげて郷土の名誉と威信を懸けて戦う大会です。栃木県代表として、2年生の大河原彩



香選手と昨年度本校を卒業した高松由來選手(現・法政大学1年)が出場しました。小山高校剣道部員も会場に駆け付けて応援をしました。

1回戦は過去に優勝経験のある強豪・岡山県との対戦となりました。先鋒戦では昨年度のインターハイ個人戦3位の實力者を相手に大河原選手が気迫あふれる試合を展開し、見事な2本勝ちを収めました。続く次鋒戦はインカレ個人戦2連覇というトップ選手を相手に高松選手は一步も退かず、引き分け。チームは後半巻き返されて同点となり、代表戦の末勝利しました。続く2回戦では徳島県と対戦し、先鋒・次鋒は引き分け、後半戦で黒星が続き、残念ながら敗退しました。

栃木県チームとしての結果は振るいませんでしたが、大河原選手の試合内容は充実していました。今後のインターハイ等に向けていい刺激を受けることのできた大会でした。



北海道インターハイ

結果報告

8月4日〜7日に、北海道帯広市・よつ葉アリーナ十勝で行われた第70回全国高等学校剣道大会(インターハイ)に、女子団体戦及び女子個人戦で出場してきました。

1日目は女子団体戦予選リーグが行われました。各所で混戦となる中、春の全国選抜ベスト4のうち2校が予選リーグで姿を消す波乱の幕開けとなりました。本校は左沢高校(山形)と岡山商大附(岡山)と対戦しました。それぞれ2-0と3-1で競り勝ち、決勝トーナメントに駒を進めることができました。

2日目は女子個人戦が行われ、本校の大河原彩香選手が出場しました。1回戦はシードとなり2回戦で愛媛県・今治精華高校の選手と対戦し、延長戦の末敗れてしまい



3日目最終日の団体戦決勝トーナメントでは、1回戦で強豪・島原高校(長崎)と対戦し、1-2で惜しくも敗れ、3年連続ベスト16という結果に終わりました。

1・2年生主体の若いチームではあるものの、6月の関東大会で優勝し、今大会も上位進出を目指していましたが、悔しい結果となりました。全国大会の厳しさを痛感しながらも、1・2年生にとっては来年に向けての貴重な経験ができた大会となりました。3年生2名はこれで引退となります。昨年の新チームスタート時には女子は4名しかいない状態でしたが、決して諦めず、辛抱強く頑張り、立派に小山高校剣道部の伝統をつないでくれました。今後はそんな先輩たちの思いを受け継ぎ、新チーム男子14名、女子11名で来年の大分インターハイでの優勝を目指しさらに精進していきます。今後とも応援の程よろしくお願いいたします。

また、今回のインターハイに大会会場まで足を運んで応援してくださいました保護者の方々や、ライブ中継で応援してくださいました皆様、様々な形で応援してくださいました関係の皆様には心から感謝申し上げます。

結果詳細: <https://inhigh.kendotaikai.jp>



国民体育大会

関東ブロック大会

結果報告

8月20日に、埼玉県上尾市埼玉県立武道館で行われた特別国民体育大会関東ブロック大会に、少年女子の部で出場してきました。関東ブロックで勝ち残った3チームが本国体への出場権を獲得します。

昨年のいちご一會とちぎ国体において、少年女子は本校単独チームで見事優勝しました。今年は「単独チーム」にはならず、本校4名と白鷗足利1名のチーム構成となりました。北海道インターハイが終わるとすぐに国体の動きに入り、京都に遠征をしたり、合宿をしたりと、昨年の先輩たちの偉業に続くべく今年も精一杯の稽古を積んで臨みました。

結果は、惜しくも国体出場に届かず悔し涙を飲みました。しかし、出場した4名のうち3名は1・2年生です。来年こそは必ず勝つことを決意して会場を後にしました。今回、大会会場まで足を運んで応援してくださいました保護者の方々、様々な形で応援してくださいました関係の皆様には心から感謝申し上げます。

ウエイトリフティング部

インターハイを終えて

3年4組 竹澤 菜々香

インターハイは緊張したが楽しめた大会だった。今回の大会は4回目の全国大会だったが、インターハイは初めての出場だった。全国選抜大会とは違い、各都道府県が



が集まった選手の多さが緊張を増幅させた。怪我が完治して2度目の大会のためスナッチ、ジャーク共に軽めのスタート重量を設定し6本成功を目標に試合に挑んだ。スナッチは練習通り3本成功。ジャークは1・2本目は余裕をもって成功した。3本目を残し6位の選手とトータルで10kgもの差があり、通常では逆転不可能な差がついていた。しかし体調が思った以上に良く、また、本来であればベスト記録よりも10kg以上軽い重量だったので2本目から11kg増加し逆転をかけて3本目に臨んだ。重量を11kgも増加し試技をするのは初めての経験だったし、久しぶりに触る重量だったので緊張が一気に増した。「この1本を成功させて6位入賞をしよう。」と自身を奮い立たせ試技に臨んだ。名前がコールされ試技台に上ると、さっきまでと風景が違って見えた。バーベルを握り構えた時に緊張で手が震えているのが分かった。「絶対に成功する！このために今まで一生懸命努力したんだ。失敗するわけがない。」と思った瞬間、震えが止まり全身に力がみなぎる様な感覚になった。3本目は今大会で一番上手くジャークを成功する事ができた。しかも、逆転に成功し6位入賞もする事が出来た。うれ

ボクシング部

関東大会に参加して

2年6組 佐藤 悠人

令和5年6月1日から6月4日にかけて山梨県甲府市小瀬スポーツ公園武道館で開催された、第65回関東高等学校ボクシング大会に出場しました。初めて出場する関東



しかった。今回の大会で調子が良い時ほど真剣に気を引き締めて臨むことが大切なことだと感じた。また、大会に臨むにあたって調子が良い時ばかりではないので、どんな時でも基本に忠実に動けるよう練習に取り組む重要性を学んだ。この経験を活かしこれからも競技に励みたい。

大会は、緊張と少しの好奇心があり、地に足がつかないでいました。そうしたなかで私を感じたことは、リングが醸し出す威圧感です。県大会で使用しているリングと別段変わりはないのですが、会場や選手たちが感じさせる雰囲気明らかに違ってしまいました。正直、私はその威圧感に吞まれてしまいそうでした。しかし、今まで積み重ねてきたことを信じてリングに上がり、3位入賞を果たすことができました。

このように私が関東大会という舞台に上ることができたのは、たくさんの人達に

陸上競技部

支えられ、背中を押してもらえたからです。文面ではありませんが、この場をお借りして皆様にお礼を申し上げます。

今年度、陸上競技部は2年印南智史が男子400mで大きな飛躍を見せました。6月の関東総体では5位入賞を果たし、本校陸上競技部では9年ぶりとなるインターハイ出場を勝ち取りました。北海道インターハイでは予選敗退となりましたが、その後も10月の特別国体に男女混合リレーの選手として出場、関東新人大会では6位入賞など全国の強豪選手と走ること貴重な経験を積み重ねています。



他にも6月の関東総体には3年古内良汰が男子200mに出場、男子4×400mリレーに山田・印南・高木・岡田が出場しました。また、女子でも2年白水ゆづさが3000m障害に挑戦し、8月に神奈川で行われた関東選手権に出場しました。選手の頑張りはもちろんですが、コロナ禍で制限されていた応援が解禁され、部員全員の声援による後押しがこのような結果につながったと思っています。来年度も部員一丸となってそれぞれの目標実現に向かい取り組んでいきたいと思っています。

水泳部

7月21日～23日に東京アクアティクスセンターで行われた、令和5年度関東高等学校選手権水泳競技大会に、2年生の池田一期が200m個人メドレーに、同じく2年生の黒田彩華が200m個人メドレーと100mバタフライに出場しました。

黒田は昨年に続き2年連続での関東大会出場となりました。県予選大会において、100mバタフライはエントリータイムが拮抗し混戦が予想されましたが、決勝で本選出場の標準記録を突破し6位入賞で関東大会への切符を手にしました。池田は200m個人メドレーに種目を絞り見事予選を勝ち上がり、決勝では渾身の泳ぎで標準記録を突破し、関東大会への切符を手にしました。

個人メドレーは、定められた順序（バタフライ↓背泳ぎ↓平泳ぎ↓自由形）で各泳法規則に従って泳ぐため、4泳法すべてマスターした総合的な泳力が必要で、数ある



競技種目の中でも過酷な種目です。その中で男女ともに本選出場をきめたことは日々の努力の成果だと思っています。関東大会ではベストタイム更新とはなりませんでしたでしたが、東京オリンピック会場で泳ぐことができ、いつも以上に気が引き締まる思いのでることができました。

最後に、関東大会出場にあたり大変多くの方々から応援していただき、ありがとうございました。水泳部は少人数精鋭のチームです。来年も再来年も関東大会に出場できるように、これからも日々努力を積み重ねていきます。

少林寺拳法

関東大会・全国大会に出場して

1年2組 鈴木 美涼

私は今年度、高校へ入学してから初めて5月の関東大会、および8月の全国大会に、栃木県代表の選手として参加しました。結果は残念ながら予選敗退でしたが、この大会に出場したことが、とても良い経験になりました。私は単独演武に出場しましたが、強豪校の選手たちの演武は、自分のそれよりもはるかに美しく、身体の使い方、演武構成など、すべてにおいて素晴らしいもので、自分はまだまだ練習が足りないということを感じました。私は、学校の部活動ではなく、あくまで習い事として少林寺拳法をやっているので、週に2・3時間しか練習時間が取れません。そのため、練習内容もごく限られたものになりますが、今回の経験をを通して、少しでも全国大会で上位に入賞する選手のような演武ができるよう

に、練習することが大切だと痛感しました。最後に応援してくださった皆様に、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。今後もしよろしくお願いいたします。

放送部

第70回NHK杯全国高校放送コンテストに参加して

3年3組 岡 和香波

7月24日に行われたNHK杯全国高校放送コンテストのテレビドキュメント部門に出場しました。

私たちは、コロナ禍の保育園にインタビューし、今現場で求められていることを、伝えるための番組「コロナ禍の保育園から学ぶ」という作品を制作しました。完成まで様々な困難がありました。小山高校放送部は、長い間テレビドキュメントを制作していなかったため、主に2つの大きな壁がありました。

1つ目はやりたいテーマがあるのに、何



から始めればいいのかが分からないという壁でした。それでも、顧問の先生のアドバイスを元に自分たちで保育園にアポを取り、インタビューをすることが出来ました。

2つ目はパソコンやカメラなどの機材の不足と、放送部員の誰も動画編集の技術を持っていないという壁でした。私たちは、撮影から編集までを使い慣れている自分たちのスマホで行いました。インターネットで編集の仕方等を調べ、より良い作品を作れるよう努力を重ねました。

これらの壁にも挫けずに、最後まで諦めなかったことにより、全国大会に出場することが出来ました。ご協力いただいた全ての方々に感謝申し上げます。

修学旅行

『西のええとこ探索旅』

2年3組 清水 紫姫

新型コロナウイルスの影響で、中学校三年生の修学旅行の行き先は急遽福島となった。その為、人生初となった京都・奈良への訪問。広島に行けなかったのは少し心残りではあるが、想像していた以上に充実した三日間となった。その中でも特に印象に残っている体験二つがある。

一つ目は、班別行動で訪れた清水寺だ。人気観光地であることは承知していたが、思っていた以上に人で賑わっていた。せっかくの清水の舞台からの景色をゆっくり味わうことはできなかったが、短時間ながら

も見渡した京都の景色は美しく、植物がより景観の美しさを際立たせていた。また、清水寺は好きなアニメの舞台にもなっている為、同じアングルで写真を撮るなど、裏テーマとなっていた聖地巡礼も楽しい思い出となった。

二つ目はクラスで体験した和菓子作りだ。私は元々、和菓子が好きだった為、クラス体験が和菓子作りに決まった時はとても嬉しかった。生菓子の味は言ってみればあんこか白あんこかの違いしかない。しかし、季節ごとに変わるデザインが生菓子の美しさと繊細さをより感じさせる。また、実際に体験してみて気付いたこともある。生菓子は私が思っていた以上に繊細だった。指の力を少し入れるだけでせっかく作った形



が簡単に崩れてしまう。特に作り終えた生菓子を市販のケースに移す作業には骨が折れた。あんこはしつとりとしている為、一度机に置くと緩く張り付いてしまう。持ち上げようと力を込めれば変形し、変形させないようにすればするほど持ち上がらず、結局私の生菓子は指の跡が残ってしまった。また、生菓子の価格帯は少し高価である。それはひとつ作るのにかけられている時間や、職人の方の技術があるからだと言回の体験を通して学んだ。

ホテルでは小・中学生時代の思い出話にも花を咲かせた。しかし、慣れない生活は疲れるものである。楽しい三日間ではあったが、やはり家が一番落ち着く空間であると再確認した旅でもあった。

女子の制服が替わりました

令和5年度入学生から、女子の制服が新しくなりました。写真のようにスカートとスラックスの2つのタイプがあります。合わせて校章入りのベストとセーターを導入しました。また、リボンもネクタイとなり、スタイリッシュで活動しやすいスタイルの制服となりました。令和5年度入学生から希望するものを選択して購入し着用しています。上級生も希望すれば購入して着用することが出来ます。



令和5年 小山高等学校 創立記念講演会

小惑星探査機「はやぶさ2」：世界初への挑戦とその結果

◎開催日 令和5年11月9日 (木)

◎講師 JAXAはやぶさ2拡張ミッションチーム

准教授 吉川 真(よしかわ まこと) 様

吉川先生は、栃木県栃木市のご出身で、栃木高等学校を卒業した後、東京大学理学部天文学科に進学され、東京大学大学院理学系研究科博士課程修了後、人工衛星などの研究に取り組みました。日本学術振興会 特別研究員、通信総合研究所 主任研究官などを歴任され、現在は宇宙航空研究開発機構 JAXA (ジャクサ) 宇宙科学研究所 准教授でいらつしやいます。

これまでに、火星探査機「のぞみ」、小惑星探査機「はやぶさ」、電波天文衛星「はるか」のプロジェクトに携わってこれられ、2019年2月小惑星「リュウグウ」へのタッチダウンを成功させ、リュウグウ表面のサンプルを採取した「はやぶさ2」のプロジェクトでは、ミッションマネージャとしてチーム全体を取りまとめるという重要な任務を果たされました。

2018年には、イギリスの科学誌『Nature』において、「はやぶさ2」をはじめとする、小惑星の研究における実績を理由として、「小惑星ハンター」というニックネームで、その年の科学界を代表する「今年の10人」に選出され、まさしく世界的な科学者としての評価をお受けになりました。

天体の地球衝突問題(スペースガード)にも取り組んでおられ、特定非営利活動法人「日本スペースガード協会」設立時には、副理事長を務められました。また、「天文学宇宙検定」の問題の監修など、天文教育の活動にも携わっていらつしやいます。

同窓会の皆様の全面的なご支援によって、このような素晴らしい講師の先生をお招きして、創立記念講演会を持てましたことを、心より感謝申し上げます。

「やれることはすべてやる」ことの大切さ

一年六組 齋藤 慶介

今回の記念講演で、「はやぶさ」がどのように打ち上げられたかや、宇宙で、「はやぶさ」にどのようなことが起こったのかという話をしていただきました。しかし、この話がただの天文学や宇宙工学には僕らは思いませんでした。今回の公演は高校生の成長のためにどのようなことが必要かを話してくれていたと僕は思いました。

宇宙のどこから始まり、「はやぶさ」のミッションの説明や、宇宙に「はやぶさ」が行ったときに起こったアクシデントなどを説明してくださり、未知の世界に一步步踏み込んだ気持ちになってとても面白かったのですが、その途中でおっしゃっていた「挑戦した」や「あきらめなかった」「やれることはすべてやった」などの大事だけれども難しいことをしっかりと行った結果、ミッションの成功につながったという話が心に刺さった講演でした。

僕は今回の公演から、今後の課題研究で行き詰った時に、その時できることを最後の最後までやろうと思えました。そうしたら、「はやぶさ」が地球に帰ってきてきてミッションが成功したように、もしかしたら新しい考えや発見が待っているかもしれないと思いました。



楽しむことが最も重要

二年五組 中野 優結

私が今回の講演で最も印象に残っているのは、「成功を収めるには、楽しむことが最も重要である」という言葉です。吉川さんが携わったプロジェクトは、成功すれば世界に大きな影響を与える壮大なものですから、責任感や不安などを感じて当然の状況だったと窺えます。そのため、そんな状況でも最後まで楽しんで取り組んだという吉川さんの言葉に、私は驚きを覚えました。しかし、それと同時に尊敬の念が生まれ、今後の行動指針になる大切な言葉であるとも感じました。吉川さんは、チームの雰囲気良かったことが、成功につながったとおっしゃっていましたが、それは新しいことがわかる楽しさを忘れずに取り組まれていたからだと思います。私は勉強する際、新しいことを覚えたり、自力で答えを探っていたりする楽しさを忘れてしまいがちです。しかし、そんな時こそ楽しく、そして友人と切磋琢磨していくことが大切なのだと思ふことができました。

今回の講演で、楽しく取り組むこと以外にも困難にぶつかっても何度も挑戦する忍耐力や失敗を成功に繋げる向上心など、人生において大切なことを多く学びました。この学びを今後の学校生活、さらには長い人生で、存分に活用していきたいと思えます。



令和4年度 栃木県立小山高等学校同窓会会計決算書

収入額 5,611,133円 支出額 3,559,044円 差引残額 2,052,089円

収入の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 引	摘 要
繰 越 金	2,674,426	2,674,426	0	前年度繰越金
会 費	2,340,000	2,300,000	△40,000	10,000円×230名
雑 収 入	574	636,707	636,133	預金利息、同窓会寄付金等
合 計	5,015,000	5,611,133	596,133	

支出の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 引	摘 要
会 議 費	315,000	258,259	56,741	本部役員会経費、総会
需 要 費	30,000	914	29,086	ゴム印等
通 信 運 搬 費	200,000	90,936	109,064	切手代
印 刷 製 本 費	500,000	257,400	242,600	同窓会報印刷代等
卒 業 記 念 品	250,000	135,700	114,300	卒業記念品(証書フォルダー)
旅 費	70,000	0	70,000	
渉 外 費	85,000	0	85,000	
支 部 助 成 費	30,000	30,000	0	市役所清山会助成
研 修 費	200,000	0	200,000	
入 会 式 費	60,000	55,652	4,348	入会式経費
進 学 助 成 費	100,000	74,800	25,200	進路だより
競 技 出 場 補 助 費	250,000	131,200	118,800	関東大会以上参加選手激励金
創 立 記 念 助 成 費	350,000	345,650	4,350	創立記念タオル、講演会講師謝礼等
慶 弔 費	280,000	60,660	219,340	餞別金
教 育 活 動 補 助 費	300,000	298,380	1,620	ケヤキ剪定、大判プリンターリース代等
事 務 補 助 費	150,000	140,000	10,000	事務補助
積 立 金	1,500,000	1,500,000	0	特別事業費積立(周年事業等)
予 備 費	345,000	179,493	165,507	パソコン・プリンター購入等
合 計	5,015,000	3,559,044	1,455,956	

21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
監 事	監 事	監 事	庶 務	庶 務	庶 務	庶 務	会 計	会 計	会 計	会 計	副 会 長	副 会 長	副 会 長	副 会 長	副 会 長	副 会 長	会 長	名 譽 会 長	顧 問	顧 問
							事 務 長				教 頭	清 山 会							校 長	
秋 山 静 男	大 橋 文 男	鈴 木 良 弘	楠 田 健 一	渡 辺 秀 夫	赤 荻 一 夫	植 村 一 子	星 野 尚 子	平 田 廣 一	増 子 浩 司	小 林 敏 明	佐 山 利 晴	高 橋 信 雄	菱 沼 英 子	小 堀 順 子	滝 沢 洋 子	山 本 幸 男	船 渡 川 進	栗 田 城 宏	小 林 崇 宏	石 崎 進

小山高校

令和5年度 同窓会役員名簿

(令和6年2月1日)

同窓会報発行にかかる費用をご寄付いただいた皆様 ありがとうございました

(敬称略・ご入金順 令和六年一月十日現在)

今回皆様の温かく、心強い御支援を頂いた賜と心から感謝いたしております。ここに、ご寄付くださった方々のご芳名を謹んでご報告申し上げます。

鈴木良弘	日向野勝	古山房子	高山秀雄	長茂男	富塚雄二	内藤孝子	毛塚浩司	稲葉英男	大塚徹	池上和子	北島輝美	須田陽介	渡辺政雄	横井章文	川島一夫	山口裕子	島野利治	雲井真弓	篠崎邦雄	野澤光
藤沼喜平	諏訪良作	山中弘幸	蒲田直樹	蒲田俊彦	菊地寿	小井田雪雄	橋本幸泰	板橋智	大出国夫	大橋一博	針谷久雄	早乙女勇	神田洋子	井村幹江	飯野佳昭	武井一晃	井島静子	坪野谷忠平	栗原得三	大橋文男
伊藤澄恵	館野茂男	百目鬼正義	岩崎正一	石崎進	杉村久子	赤荻秀夫	小堀順子	平田廣一	高田勝三	金谷君枝	荒井宣	植村友芽	上野恵美	高橋希美	船渡川進	山家政勝	速水一成	星野賢一	匿名(3名)	

この寄付は本号4ページに掲載の池上様の提案により始まりしました。同窓会報の発行を継続するために、今後ともよろしく願っています。

同窓会事務局から

お知らせ

令和六年度の同窓会総会

日時 二〇二四年五月十八日(土)

午後二時～ 小山グランドホテル

令和六年度から会場が小山グランドホテルに変更になります。

詳しくは後日、学校HPでお知らせします。

お願い①

第三号より「活躍される同窓生」を、第六号より「懐かしの先生」というコーナーを設け、同窓生の近況や様々な情報を掲載し、小山高同窓会報を年一回発行していきたいと考えております。寄稿していただける方がいらつしやいましたら、自薦他薦問いませんので事務局までご連絡ください。

お願い②

小山高校の歴史、課程や学科の変遷、部活動の栄光の記録などを集積したアニバーサリーホールが創立百周年を記念して本校に整備されました。展示していただけのものがありましたら、事務局までご連絡ください。

お願い③

小山高校ホームページにて、同窓会から情報発信する場合がございます。内容をご確認ください。第六号までの同窓会報もホームページでご覧いただけます。

編集後記

この度、同窓会報に初めて携わらせていただきました同窓会役員1年目、平成9年卒の平田廣一と申します。創立100年以上ある小山高校の歴史に、幅広い年代層の卒業生が地域で各々活躍されていることを嬉しく思いました。改めて小山高校卒の誇りを感じると共に「私もまだまだ頑張らないといけない」とエールをいただきました。有難うございました。

また、小林校長先生をはじめ現役の先生方や同窓会役員には、私が学生時代に大変お世話になりました先生もいらつしやいます。新旧の先生方が小山高校を支え合っている姿に、これからの小山高校卒業生のご活躍と本校の益々の発展を確信しました。

結びに、本誌に携わる事で恩師や同級生・先輩・後輩に多くお会いする機会ができました。その事が特に嬉しく、繋がっているご縁に感謝致します。皆様くれぐれもご自愛ください。最後まで同窓会報をご覧になっていただきまして、誠にありがとうございました。(平田)

小山高等学校同窓会事務局

〒323-0028

栃木県小山市若木町2-8-51
Tel 0285-2210236

ホームページは
こちらから

